

3つのポリシー

健康科学部

〔ディプロマポリシー〕

健康科学部のディプロマポリシーは、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体性・多様性・協働性」の3つのカテゴリーで構成されます。学位授与の規定は、2学科が定める所定の単位を修得し、学士力、専門職能を身に付けた専門的職業人としての使命感や責任感が持てる者であることが重要となります。さらに、多世代にわたる対人関係力を身に付け、社会の一員として適切な行動ができている者に学位を授与します。

〔カリキュラムポリシー〕

本学部は、建学の精神であり学園訓である「親切」を根幹としており、教育課程では、「個々の人格を陶冶し、かつ高い教養を身に纏った力強い職能人を育成する」ことを目的としています。これを達成するため、第一に、学士力向上を目標として教養科目、外国語科目などを医療科学部・生活環境学部・児童教育学部と可能な限り共通で設け、幅広い視野に立った豊かな人間性を育成します。第二に、2学科それぞれに多くの専門科目を設置して体系的な教育課程を実現しつつ、有機的連携を保ちます。健康栄養学科においては、将来管理栄養士として活躍できる人材を養成するために必要な専門科目を多く設置し、国家試験合格を支援しています。看護学科においては、健康科学についての基本的な認識を土台として、看護の職務を遂行する上で必要となる専門的な知識と技術の修得のための専門科目を多く設置しています。学部全体(学士課程)では、活きたコミュニケーション能力をもち、専門職域のリーダーとして社会貢献のできる人材を育てるための教育課程を編成しています。

〔アドミッションポリシー〕

本学は、長年にわたり学園訓「親切」を根幹として、個々の人格を陶冶し、かつ高い教養を身に付け、真の男女平等の実現を目指し、よき家庭人であり力強い職能人を育成してきています。これらの教育目的を達成するため、健康科学部は、健康栄養学科および看護学科の2学科を設置し、人々の健康の維持・増進、疾病の予防・治療に食領域、そして看護領域から貢献できる知識と技術を身に付けられるよう教育しています。健康栄養学科では、各ライフステージにおける健康課題について食領域の立場から追究し、さまざまな対象者に応じた食支援を科学的根拠に基づいて実践できる管理栄養士を育成しています。看護学科では、『人』『いのち』『健康』『生活』『看護』に関心をもち、生命の尊厳や人の価値観を理解し、人を尊重できる「感性と倫理観をもつ人間力」と、科学的根拠に基づき、関連学術分野との連携・融合した実践ができる「的確な看護実践力」を育成しています。

両学科とも、自立し、同時に、学科のもつ専門的職業人として社会貢献をしたいと願う人材を求めています。

健康栄養学科

〔ディプロマポリシー〕

本学科所定のカリキュラムを修了するとともに、以下の資質を身に付けた学生に卒業を認定し、学士(健康栄養学)の学位を授与します。

- 1) 知識・技能：食物学や栄養学を中心に幅広く学修し、管理栄養士に必要な基礎知識と応用力を身に付けていること。
 - (1) 食物や栄養、病態について科学的根拠に基づく正しい知識・技能を修得し、さまざまな対象者に応じて適切な栄養管理、栄養教育を行うことができる。
 - (2) 栄養バランスの重要性とともに食べるタイミングと健康との関連について理解し、多様化するライフスタイルに応じた食支援ができる。
- 2) 思考・判断・表現：食物や栄養に関する事柄について、問題点を把握し解決するための思考力と判断力を身に付け、さまざまな対象者の意見を聞き、それに対する自分の考えや知識を正確に伝えることができる表現力があること。
 - (1) 対象者の身体状況を正確に把握し、適切な栄養管理、栄養教育のプランを立案できる。
 - (2) 対象者から情報を引き出すとともに適切なアドバイスを分かりやすく伝えるコミュニケーション能力を身に付けている。

- 3) 主体性・多様性・協働性：管理栄養士養成課程での学修を基に、常に研鑽を積み、新たな問題や課題に対して積極的に取り組み、責任ある行動や言動ができること。
- (1) 複雑化した健康問題に対して、多様な角度から情報を収集、分析し、自ら行動して問題を解決しようとする実行力を持っている。
 - (2) 食品、教育、福祉、医療等のさまざまな分野において、協働する他の専門職との相互理解に主体的に取り組むことができる。

[カリキュラムポリシー]

1 教育課程の編成目標

ディプロマポリシーの達成に向け、食と健康に関する専門知識と技能、科学技術の進展やグローバル化に対応できる専門知識と技能を修得し、医療職とも連携できる管理栄養士としての能力を育成します。

2 教育課程の編成と特色

1) セメスター制と GPA

セメスター制を導入し、一年を前期と後期に分け、半期ごとに完結する授業を行います。これにより、学生は半期ごとに単位履修状況を見直し、管理栄養士国家試験受験資格や栄養教諭免許などの取得可能性について確認できます。また、GPA (Grade Point Average) を活用して学生指導を充実させます。

2) 全学共通科目の設定と充実

大学での学びの導入として、初年次セミナーを1年次において履修し、大学生活における学修の目標を見定め、専門科目の履修目的の確認やモチベーションの高揚を目指します。また、「学士力」育成を目指し、人間形成、一般教育、外国語、情報・表現などのカテゴリーに分けた全学共通科目を可能な限り選択できるよう設置します。

3) 専門科目群

管理栄養士養成課程として、理論と実践の一体的な専門教育を目指したカリキュラム編成を行い、必修・選択等の割合を適切に配置し系統的に編成します。また、学生が自らの興味関心あるいは将来の職域をふまえてより深い専門知識や技能を修得するために発展・応用科目を設置します。さらに、医療科学部ならびに看護学科との連携のもと学部・学科間連携科目を設置します。

4) 学修成果測定

- (1) ルーブリックによる学修成果の可視化
- (2) 学修ポートフォリオによる学修成果の蓄積
- (3) 管理栄養士が必要とする学修成果や学修達成度の評価

5) 学修環境

- (1) 管理栄養士国家試験受験資格取得に必要な科目配置を行います。
- (2) 管理栄養士が必要とする知識と技能の統合のための科目「健康栄養学総合演習」を設置します。
- (3) 授業担当者とクラス担任の緊密な連絡と情報交換により、きめ細かい指導を行います。
- (4) 総合学修のための自習室を準備します。

[アドミッションポリシー]

1 教育目的・人材育成目標

人々の健康の維持・増進、疾病の予防・治療に対し、食領域から寄与するために、科学的根拠に基づいた食支援の実践に必要な専門知識と技能を身に付け、社会貢献できる人材の育成を目的としています。

2 求める学生像

- 1) 食物や栄養に関する知識や技能の基礎として、高等学校での学習科目のうち化学や生物を中心に幅広く履修し十分な基礎学力を持つ者
- 2) 人の意見を聞き正確に理解し、自分の意見や考えを的確に表現し伝えることができる者
- 3) 食物や栄養に関する事柄に関心を持ち、人々の健康増進や疾病予防について専門知識を身に付け、社会貢献できるコミュニケーション能力を高めることを目指す者。
- 4) 4年間の学修成果を実践し、管理栄養士や栄養教諭など専門を生かした職業を目指す者